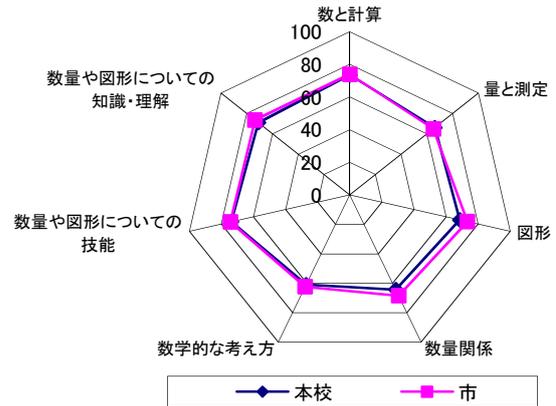


宇都宮市立御幸が原小学校 第5学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	73.5	73.9
	量と測定	66.1	65.0
	図形	68.5	73.2
	数量関係	64.3	68.5
観点別	数学的な考え方	61.0	62.4
	数量や図形についての技能	73.8	74.4
	数量や図形についての知識・理解	71.0	73.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	正答率が74%で、おおむね定着していると言える。その中で、少数のわり算であまりの処理をする問題や分数と小数の大きさの比較をする問題の正答率が低かった。どちらも5年生の内容である。5年生の算数は4年生の内容と比較すると質、量ともかなり高度になっている。TTや習熟度別学習で効果は上がっているが、苦手な児童の底上げが今後の課題となる。	単純で基礎的な計算はよく身に付いているが、少し難易度が上がると正答率が急激に落ちてしまう傾向にある。特にその傾向は苦手な児童に強くみられるので、今後もTTや習熟度別学習を生かし、個別の指導時間を何とか確保し、底上げを図りたい。
量と測定	正答率が66%で、やや定着率が低い。市の平均は上回っている。平均を求める問題や計算のきまりを小数にも応用する分野で、市の平均を下回った。立方体や直方体の体積を求める問題はよくできていた。	昨年度は、算数全般で定着率が市の平均を下回っていたが、今年度はだいぶ底上げできてきている。TTや習熟度別学習の効果が現れてきているので、今後もこれを有効活用したい。また、単位量当たりの大きさを求める問題は、例年同様定着率が低いので、プリント等で繰り返し練習させ、定着率を高めたい。
図形	正答率が68%程度で、定着率が低かった。特に4年生の内容の、直方体の展開図から平行や垂直な面と辺の関係を問う問題での正答率が低かった。	4年生の内容以外はよく身に付いているので、今回正答率の低かった立体の辺と面の関係をプリント等で復習させたい。
数量関係	正答率が64%で、定着率が低く、市の平均と比べても4ポイント下回っている。特に、計算のきまりを活用する問題での定着率が低かった。	比例の関係は分かっているが、それを式に表現できない児童も多いので、表やグラフとそれを表す式とを結び付けられるように個別に支援したい。教科書の巻末の算数のまとめやステップアップの問題を復習しながら個別支援の時間を確保したい。